第24回

幸田町中学生海外派遣報告

第24回幸田町中学生海外派遣（生徒13人、引率者4人）が8月16日から23日までの8日間の日程で、マレーシアとシンガポールを訪問しました。マレーシアのペナン島にあるヘン・イー中学校での体験入学やテロッバハン村でのホームステイ、また世界文化遺産のジョージタウンの見学を行いました。シンガポールでは国立歴史博物館などでシンガポールの歴史について学び、行政と歴史の中心地であるマリーナ地区の見学もしました。

今回の特集では、異国で暮らす同世代の若者との交流を通して学んだこと、マレーシア、シンガポールに行ってみて、身をもって感じたことなどを報告します。

優しさに触れた訪問

南部中学校　市川（いちかわ）　史織（しおり）さん

8月19日、私たち派遣団はマレーシアにある「ヘン・イー中学校」を訪問しました。学校に着くと、生徒の皆さんや先生が出迎えてくださいました。教室へ入るとたくさんの人がいました。40人近くいたと思います。前に立ち、自己紹介をしました。席に着くと隣の席の子が私に笑いかけてくれました。うれしかったです。私は、マレー語、科学、中国語、歴史の授業を受けました。言語の授業はどちらもその言語しか使っておらず、とても驚きました。所々わからないところがあると、隣の子が一生懸命教えてくれて、うれしかったです。休憩時間になると、多くの子が私の周りに来て、私の作った名刺をもらってくれました。名刺を渡すととても喜んでくれました。

午後からは、交流会がありました。その中で、生徒からの出し物として、伝統的な踊り、歌、チャイニーズオーケストラクラブの演奏がありました。どれも、とても素晴らしく、同年代の子たちがやっているとは思えませんでした。そして、私たちからは、南中ソーランと歌を披露しました。終わると大きな拍手をしてくれて、本当にうれしかったです。その後は、校内見学をしました。スクールバディと2人で校内を回りました。一つ年上のバディは、ゆっくり丁寧な英語で私に説明をしてくれました。新しい建物には、3カ国語の本が置いてある広い図書室や、天体望遠鏡などがありました。外にはとても広い食堂があり、全校生徒およそ3、000人がそこでご飯などを買って食べるそうです。日本の学校との違いの多さにびっくりしました。

今回の訪問で、初めて海外の学校で授業を受け、たくさんの同年代の子と話をしました。どの体験もとても新鮮で、自分の視野が広がりました。

同年代でも語学力に大きな差があり、驚くとともに、自分たちも頑張らなくてはいけないと思いました。

第24回　幸田町中学生海外派遣団一覧

＜幸田中学校＞
西垣（にしがき）　魁人（かいと）、平松（ひらまつ）　佑一（ゆういち）、松野（まつの）　桃香（ももか）、板垣（いたがき）　晏奈（あんな）、三木（みき）　勇人（はやと）、上島（うえじま）　梨菜（りな）

＜南部中学校＞
市川（いちかわ）　安祐（あゆ）、長尾（ながお）　瑠依（るい）、市川（いちかわ）　史織（しおり）

＜北部中学校＞
足立（あだち）　香純（かすみ）、宮川（みやがわ）　詩布（しほ）、宮本（みやもと）　采奈（あやな）、柴田（しばた）　奈緒（なお）

＜引率者＞
伊藤（いとう）　映充（てるみつ）、岩下（いわした）　英司（えいし）、濱谷（はまたに）　浩正（ひろまさ）、成瀬（なるせ）　千恵子（ちえこ）

順序不同・敬称略

特集3 第24回 中学生海外派遣報告

発展の裏側に

北部中学校
宮本（みやもと） 采奈（あやな）さん

私がマレーシアとシンガポールの見学をして、まずはじめに感じたことは、どちらの国も中国系の建物が多いということです。マレーシアやシンガポールは、多民族国家であり、その中でも中華系の人が多いので、市内の建物も昔ながらの中国系の建物が多いそうです。だから、同じ市内でも全く異なる教会があったので、大変驚きました。

世界遺産に指定されたマレーシアのジョージタウンは、イギリスの植民地支配を受けていました。市内の海岸にある要塞跡には、当時のイギリスの大砲があり、あらためてイギリスの力の大きさを感じました。シンガポールのマレーヘリテージセンターでは、昔の王様の生活の様子や使っていた物が展示されていました。昔の日本人と同じような物も使っており、国内で得られる物を工夫して使っているところは、世界共通なのかと思います。そしてシンガポールにも寺院を中心にしたチャイナタウンがありました。まさかシンガポールにまで中国系の建物があるとは思ってなかったので、やはり多民族国家は本当にそれぞれの文化を共有しているのだと思いました。だから、お互いを理解し、尊重しあってこの国は成り立っているのだと私は思います。

そして、一番楽しみにしていたマーライオンは思ったよりも大きくて近くに行くと水しぶきがかかって結構ぬれました。それほど口から出る水の勢いはすごかったです。今回の海外派遣でさまざまな見学をしました。とても素晴らしい見学でしたが、ふと足元を見るとゴミが落ちていました。上を見上げればきれいな高層建築が建っていますが、皆足元は知らん振りをして歩いています。その時ふと日本を思い出しました。ゴミはちゃんとゴミ箱に捨てています。日本では当たり前の事ですが、それは現地では当たり前ではなかったのです。

シンガポール、マレーシアはとても発展していて、日本は見習わなければならないと思います。しかし、少し角度を変えてみれば、日本の優れているところを見つけることができます。派遣先での見学では、たくさんの発見がありました。今後の生活で、五感で感じてきたことをいろいろな人に伝え、役立てていきたいです。

人々の温かさに触れて

幸田中学校
上島（うえじま） 梨菜（りな）さん

海外へ行くことは、私にとって初めての経験であり、特に3泊4日のホームステイでは、ホストファミリーとのコミュニケーションがうまくとれるかどうか、不安な気持ちでいっぱいでした。でもそんな不安は、ホストファミリーが笑顔で歓迎してくれた瞬間からなくなりました。

私の家庭には、たくさんの子どもがいました。最初はお互いに緊張して、なかなか会話ができませんでしたが、子どもたちと遊びを通じて、コミュニケーションをとることができ、緊張もほぐれました。日本のように、テレビやゲーム中心ではなく、石やビー玉を使ってみんなで楽しめる遊びが中心でした。

私はホストファミリーに日本の文化を伝えるために小学生の時から習っていた書道を披露しました。筆と墨を使って文字を書くということに興味を持ってもらい、みんな楽しそうにチャレンジしてくれました。最後に、家族一人ひとりの名前を漢字にして、全員にプレゼントをした時は、みんなが喜んでくれたので、私もうれしくなりました。ホームステイ最終日には、自然とマレー語が理解でき、少しですが話せるようになっていました。

今回の海外派遣を通して感じた事は文化、言葉が違っても、お互いを理解しようという気持ちがあれば、思いは伝わるということです。そして人の温かさを感じることができ、コミュニケーションの大切さをあらためて学ぶことができたと思います。

貴重な経験をさせていただき、ホストファミリーやガイドさんをはじめ、関係するすべての皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後の交流に期待がふくらむ

団長 幸田中学校
伊藤（いとう） 映充（てるみつ） 校長

本年度よりマレーシア・シンガポールへの派遣となりました。シンガポールに着きますと、アジア系、欧米系、インド系など、多くの人々を目にし、さまざまな言語を耳にし、多民族国家を実感しました。

マレーシアのペナン島では、ホストファミリーに温かく迎えていただきました。国からの認可を受けた各家庭は、多くの国の子どもたちを受け入れている経験をもち、マレーシアの文化や伝統に触れられる企画を用意して迎えてくれました。ホームステイ最終日には、マレー語と日本語の歌を歌いあってのお別れとなりました。

また、ヘン・イー中学校では、英語、科学、国語、中国語、道徳などの授業参加や交流会を行いました。日常会話は中国語、授業は英語の教科書にノート、国語はマレー語と、3カ国語を使いこなす生徒の姿には驚きました。マンツーマンでの学校案内では、英語会話を通して親睦を深めることができました。

貴重な体験の機会を得た生徒たちは、これからの学校生活や将来への展望に生かし、幸田町に貢献できる、国際感覚にあふれた人になってほしいと願っています。

問合せ　学校教育課教育G（内線422）